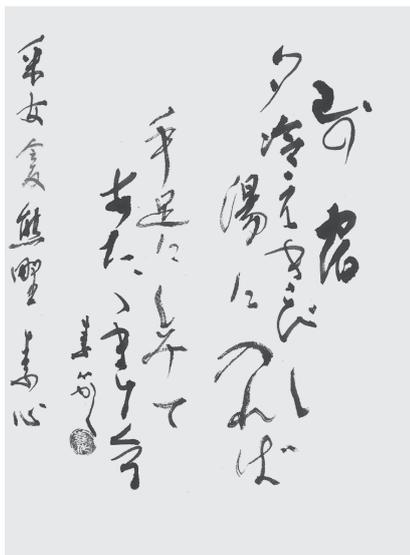


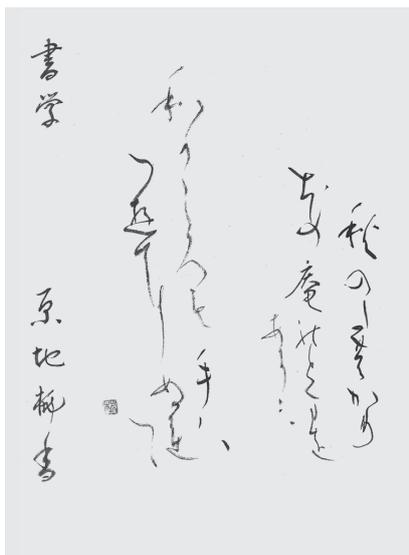
今月の最優秀作品

【新和様半紙】



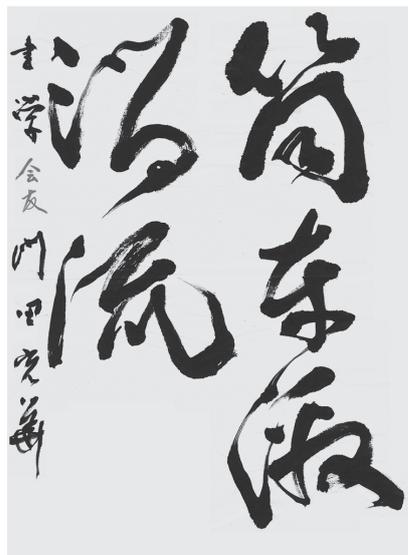
采女 熊野 素心 濃淡、潤濁がはっきりし、太細がきいている。語意を大事にして読みやすい。芸術性豊かで魅力ある作。
(審査評 東仲 遙邨)

【かな半紙】



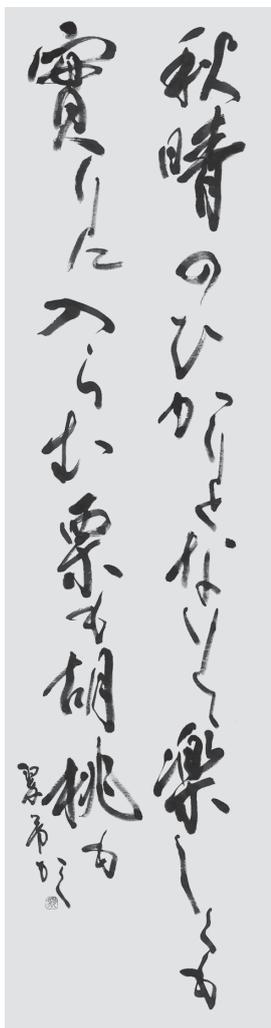
書学 原地 桃香 鋒の開閉が巧みで線の深みを感じる。潤濁の流れ美しく悠容とした落ち着きを見せた秀作。
(審査評 中條 琳音)

【漢字半紙】



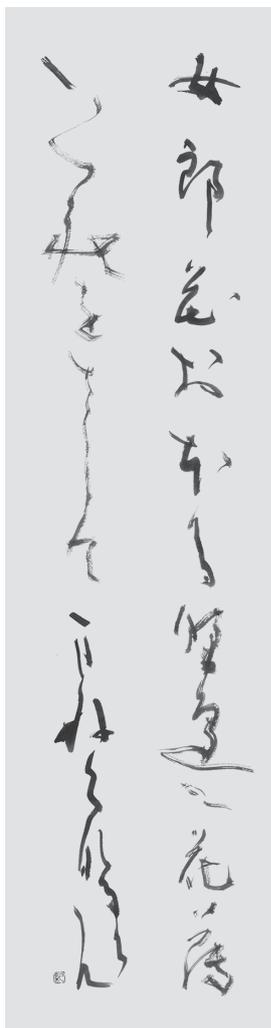
書学 門田 光華 紙墨相和し意到筆随、心のままに筆が進み乍ら三つのさんずいの変化も自然に織り込み緩急自在にして見事な作。
(審査評 池田 知之)

【新和様条幅】



岩書 伊藤 信子 絹目画仙紙を駆使し、墨色が自然で美しい。行の中心移動の巧みな揺さぶりで余白の生きた明るい作品となった。
(審査評 二宮 桂秀)

【かな条幅】



いち 榎原由紀子 温和な墨色が冴え、緩急自在な伸びやかな運筆。渴筆部には晩秋の景色を見る如き、枯淡の響きあり。
(審査評 中島 永岳)

【漢字条幅】



神子 吉田 紅夢 大胆な大小の変化を持った造型が、すっきりとした潤濁と線条の大細により爽やかな快い息吹を感じさせる秀作。
(審査評 永井 香樹)

11月提出の競書の写真版全作品は、11月20日(木)より本会ホームページに掲載いたします。

大藤 洋六 折笠知子
筒車激
澗流

幸丘 洋七 来栖智子
筒車激
澗流

香井 洋八 榎本よしみ
筒車激
澗流

M.M. 洋八 若菜 島 島
筒車激
澗流

水谷 金 友 易 友 以 熊 賢
筒車激
澗流

柳春 洋六 生越三子
筒車激
澗流

青草 洋七 赤松 佳子
筒車激
澗流

出雲 洋八 久向玉雲
筒車激
澗流

八雲 金 友 後 藤 孝 風
筒車激
澗流

天名 平 野 則 金 友 黒川 良子
筒車激
澗流

如の 洋七 東條 兼 芳
崇闡
微言

書学 六 北江 恵子
筒車激
澗流

山本 洋七 北田 尊 貞
筒車激
澗流

茶村 洋八 木下 宏 枝
筒車激
澗流

水谷 洋七 山崎 貞 蘭
筒車激
澗流

關 洋七 神崎 聖 海
崇闡
微言

湘花 洋七 高橋 佳子
筒車激
澗流

二葉 洋七 村城 輝 子
筒車激
澗流

永岳 洋八 新井 ツバキ
筒車激
澗流

水島 洋七 濱田 志 峰
筒車激
澗流

大森 洋七 沢 和 子
崇闡
微言

喜樂 洋六 山家 英 風
筒車激
澗流

末来 洋七 段 大内 啓 苑
筒車激
澗流

書学 八 大野 真 理 子
筒車激
澗流

九書 洋七 垣田 理 恵
筒車激
澗流

小曾 洋七 藤原 杏 海
崇闡
微言

葵 洋六 安藤 紗 史
筒車激
澗流

生学 洋七 小島 美 雪
筒車激
澗流

仙里 洋八 山田 翠 志
筒車激
澗流

久西 準 会 辻 孝 志
筒車激
澗流

青花
評初段
安畫
園子
崇
微
言
闡

古学
評二
仲野
美香
崇
微
言
闡

高田
評三
大田久
美子
崇
微
言
闡

月倫
評三
並木
蓮月
崇
微
言
闡

南立
評三
塩田
洋子
崇
微
言
闡

S.T
評初
石山
貴章
崇
微
言
闡

文南
評二
櫻田
湖舟
崇
微
言
闡

青空
評三
奥澤
隆志
崇
微
言
闡

青松
評三
宮城
由美
崇
微
言
闡

苗
評三
大崎
秀子
崇
微
言
闡

書字
小森
亮介
大
唐
藏

書学
評初
野澤
貴代子
崇
微
言
闡

書学
評二
宮下
香奈
崇
微
言
闡

書学
評三
富永
江蓮
崇
微
言
闡

閑四
評四
青山
愛
崇
微
言
闡

和
渡邊
一代
大
唐
藏

書学
評初
加藤
忠美子
崇
微
言
闡

書学
評二
竹中
奈和
崇
微
言
闡

大田
評三
涌井
敬子
崇
微
言
闡

加茂
評四
川崎
ひと美
崇
微
言
闡

書学
評初
羽村
幸子
大
唐
藏

豊泉
評初
豊丹生
拓真
崇
微
言
闡

益
評二
園山
栞雪
崇
微
言
闡

二宮
評三
田中
あや子
崇
微
言
闡

悟聖
評四
中野
香瑠
崇
微
言
闡

武庫
伊藤
かおり
大
唐
藏

書学
評初
林
公美
崇
微
言
闡

書学
評二
松本
麻里
崇
微
言
闡

小平
評三
若林
久代
崇
微
言
闡

九州
評四
森山
輝美
崇
微
言
闡

青松
造次
弗離
松介 割子

中原
造次
弗離
立石 明日香

大楠
造次
三蔵
姜 俊成

書学
造次
三蔵
福井 満梨奈

白千
造次
三蔵
金澤 直子

心
造次
弗離
大谷 佐和子

書学
造次
弗離
中村 有希

うみ
造次
三蔵
今村 圭子

書学
造次
三蔵
千葉 紗登子

書学
造次
三蔵
真田 夏茂

大楠
造次
弗離
鎌倉 汐里

永岳
造次
弗離
村上 由華

青空
造次
三蔵
高橋 恵美子

一揚
造次
三蔵
金子 有志

香花
造次
三蔵
守田 利加

24
造次
弗離
今井 弘美

小岩
造次
弗離
岡部 留子

書学
造次
三蔵
林 幸子

春水
造次
三蔵
山本 美穂子

千り
造次
三蔵
加藤 初佳子

書学
造次
弗離
荒川 智美

書学
造次
弗離
長田 楠子

書学
造次
弗離
唐木 真理子

書学
造次
三蔵
藤谷 雪北

息銀
造次
三蔵
浅香 直美

書学
造次
弗離
山科 光正

三木
造次
弗離
谷 彰華

青玄
造次
弗離
六瓶 山崎 照子

麻布
造次
三蔵
金原 佳知子

水蓋
造次
三蔵
佐久間 明美

余知 五五
皆巳 和子

秋の夕
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの

大楠 六
倉田 二
三

秋の夕
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの

藤原 七
中ノ 雪子

秋の夕
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの

子菜 五
若原 彌子

秋の夕
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの

初音 公文
岡本 幸子

秋の夕
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの

青松 三三
宮城 由美

秋の夕
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの

武里 武
田 鈴子

秋の夕
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの

伊賀 七
濱田 孝子

秋の夕
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの

書学 八
柴山 千恵

秋の夕
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの

春後 美文
江頭 結子

秋の夕
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの

書家 三
山崎 幸彦

秋の夕
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの

大井 六
神野 直美

秋の夕
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの

大井 六
神野 直美

秋の夕
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの

横浜 八
雨宮 正子

秋の夕
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの

横浜 美文
浅野 薫

秋の夕
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの

書学 四
廣本 萌香

秋の夕
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの

堂里 五
若澤 典子

秋の夕
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの

書学 七
加藤 時男

秋の夕
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの

書学 八
金子 聖子

秋の夕
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの

道中 美文
渡邊 秋子

秋の夕
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの

水巻 四
遠藤 紀子

秋の夕
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの

書学 三
徳安 恭子

秋の夕
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの

高野 子明

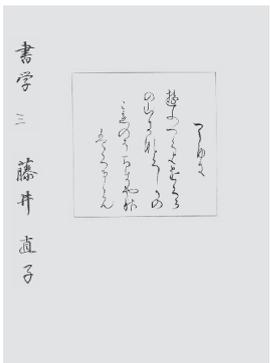
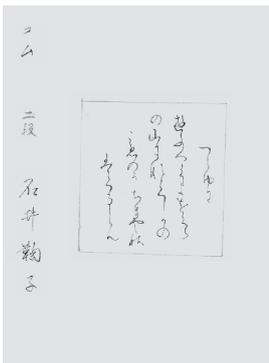
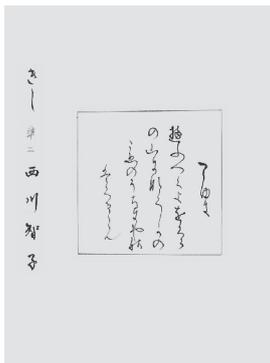
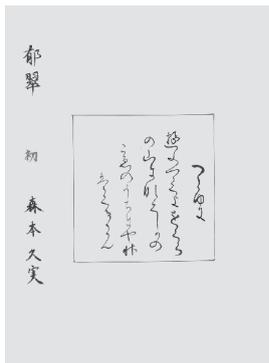
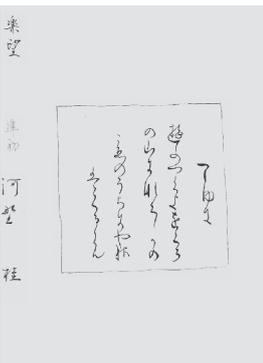
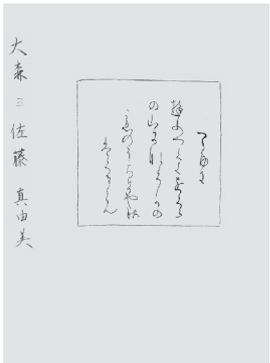
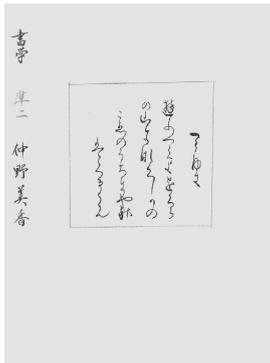
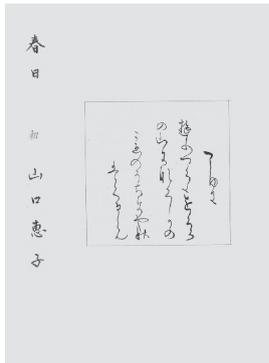
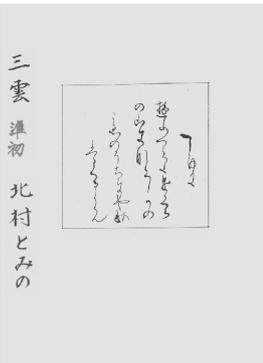
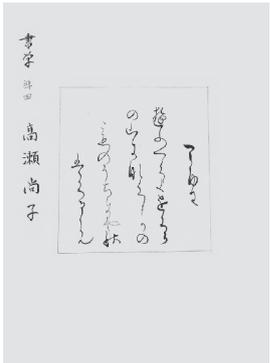
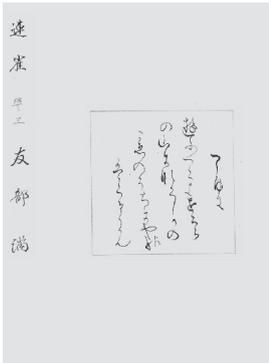
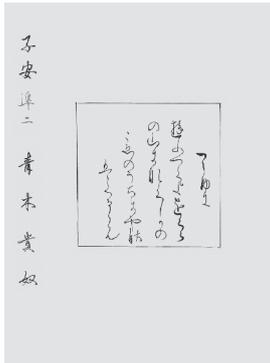
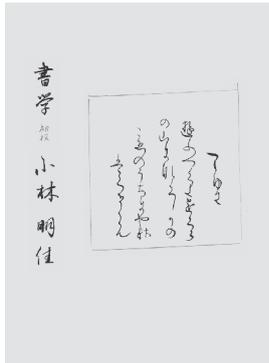
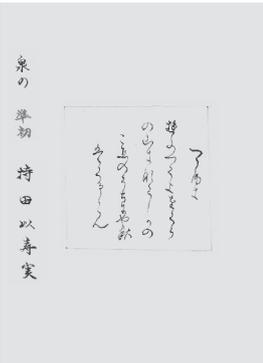
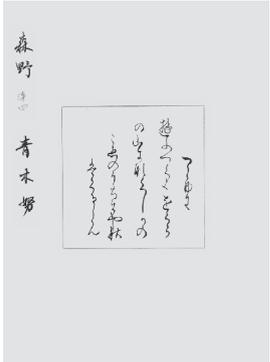
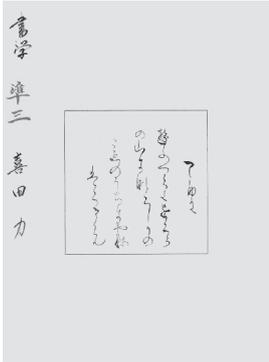
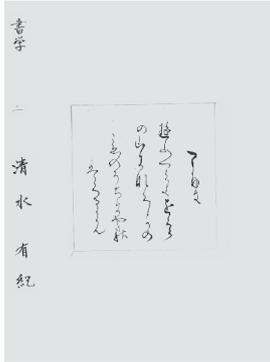
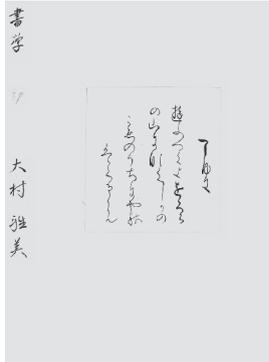
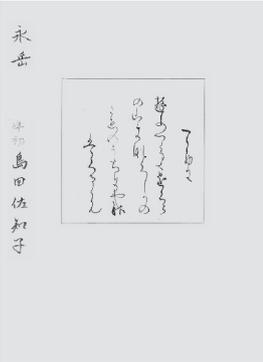
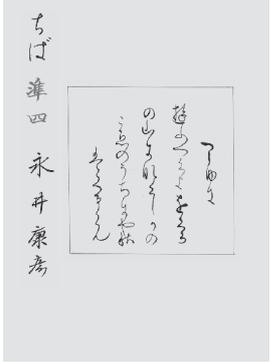
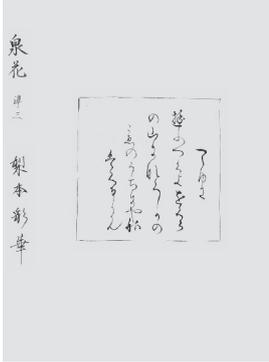
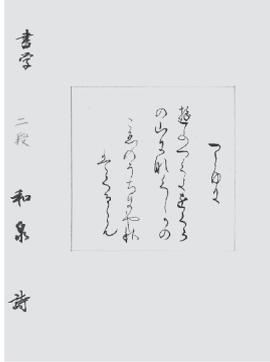
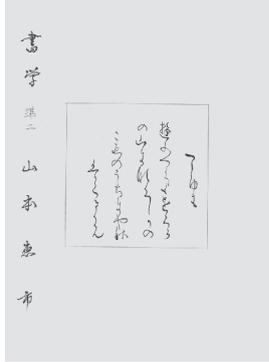
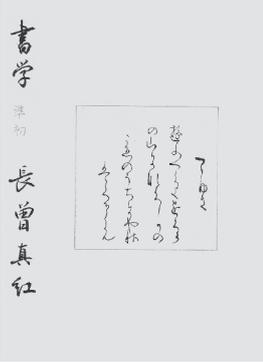
秋の夕
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの

福岡 三
久保 京子

秋の夕
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの

南巨 三
山田 千尋

秋の夕
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの



書学
松本千尋 7

もも
せけ
ほはれ

もも
せけ
ほはれ

もも
せけ
ほはれ

もも
鬼頭絵里香 6

もも
せけ
ほはれ

もも
せけ
ほはれ

もも
せけ
ほはれ

岡本
松本領子 4

やまのりあひのねの志
ふもれわさくわがなま

さぶ
倉持政雄 2

やまのりあひのねの志
ふもれわさくわがなま

松原
矢野 陸 1

やまのりあひのねの志
ふもれわさくわがなま

大福
十明博子 8

もも
せけ
ほはれ

もも
せけ
ほはれ

もも
せけ
ほはれ

永岳
村上由華 6

もも
せけ
ほはれ

もも
せけ
ほはれ

もも
せけ
ほはれ

大福
星 依成 5

やまのりあひのねの志
ふもれわさくわがなま

海光
竹内真以子 3

やまのりあひのねの志
ふもれわさくわがなま

品濃
清水いづら 1

やまのりあひのねの志
ふもれわさくわがなま

大井
安田規子 8

もも
せけ
ほはれ

もも
せけ
ほはれ

もも
せけ
ほはれ

大藤
湯浅芳子 6

もも
せけ
ほはれ

もも
せけ
ほはれ

もも
せけ
ほはれ

大福
梨田杏子 4

やまのりあひのねの志
ふもれわさくわがなま

五香
館野 祐子 3

やまのりあひのねの志
ふもれわさくわがなま

和同
大竹 美枝 1

やまのりあひのねの志
ふもれわさくわがなま

一揚
金子有忠 7

もも
せけ
ほはれ

もも
せけ
ほはれ

もも
せけ
ほはれ

小岩
岡部智子 7

もも
せけ
ほはれ

もも
せけ
ほはれ

もも
せけ
ほはれ

千日
石島 徳子 5

やまのりあひのねの志
ふもれわさくわがなま

書学
向場真木子 3

やまのりあひのねの志
ふもれわさくわがなま

書学
深谷美久 2

やまのりあひのねの志
ふもれわさくわがなま

松平
花形久美 10

もも
せけ
ほはれ

もも
せけ
ほはれ

もも
せけ
ほはれ

文宗
神田 沙耶子 7

もも
せけ
ほはれ

もも
せけ
ほはれ

もも
せけ
ほはれ

石島
好田 秋 5

やまのりあひのねの志
ふもれわさくわがなま

書学
初貝 明美 4

やまのりあひのねの志
ふもれわさくわがなま

書学
真田 夏麻 2

やまのりあひのねの志
ふもれわさくわがなま

才能も
用字しては
損なわれる

ガウソンの手記より
坂二初段 平心之子

才能も
用字しては
損なわれる

ガウソンの手記より
和泉 詩

才能も
用字しては
損なわれる

ガウソンの手記より
書学 三 遠藤志帆

才能も
用字しては
損なわれる

ガウソンの手記より
書学 濱田愉子

才能も
用字しては
損なわれる

ガウソンの手記より
濱島 愛 高橋 英龍

才能も
用字しては
損なわれる

ガウソンの手記より
格星 初 高橋 圭子

才能も
用字しては
損なわれる

ガウソンの手記より
書学 二 宮下 香奈

才能も
用字しては
損なわれる

ガウソンの手記より
墨水 三 清水 景苑

才能も
用字しては
損なわれる

ガウソンの手記より
シヨウ 桜井 篤子

才能も
用字しては
損なわれる

ガウソンの手記より
書学 三 尾崎 美和子

才能も
用字しては
損なわれる

ガウソンの手記より
沖鏡 島 繁 穂香

才能も
用字しては
損なわれる

ガウソンの手記より
湘花 二 高橋 佳子

才能も
用字しては
損なわれる

ガウソンの手記より
新書 三 夏 千葉 敏子

才能も
用字しては
損なわれる

ガウソンの手記より
青葉 一 佐藤 真理

才能も
用字しては
損なわれる

ガウソンの手記より
紅葉 五 竹入 領代

才能も
用字しては
損なわれる

ガウソンの手記より
格星 三 福村 歩美

才能も
用字しては
損なわれる

ガウソンの手記より
書学 準三 穂奈 美子

才能も
用字しては
損なわれる

ガウソンの手記より
ハ 雪 三 平田 由香里

才能も
用字しては
損なわれる

ガウソンの手記より
書学 三 廣本 萌香

才能も
用字しては
損なわれる

ガウソンの手記より
福筑 三 柳 久之子

才能も
用字しては
損なわれる

ガウソンの手記より
書学 三 藤井 直子

才能も
用字しては
損なわれる

ガウソンの手記より
MM 準二 千葉 伶音

才能も
用字しては
損なわれる

ガウソンの手記より
千蘭 三 斎藤 実千代

才能も
用字しては
損なわれる

ガウソンの手記より
三 藤原 生 留美子

才能も
用字しては
損なわれる

ガウソンの手記より
川書 田中 珠翠

青二
 吊鐘のなかの
 月日も
 柿の秋
 遠藤 悠子

葦
 吊鐘のなかの
 月日も
 柿の秋
 後藤 潤子

芝晃
 吊鐘のなかの
 月日も
 柿の秋
 喜多木 綿子

大空
 吊鐘のなかの
 月日も
 柿の秋
 中谷 悠子

三条
 吊鐘のなかの
 月日も
 柿の秋
 張戸 文子

青葉
 吊鐘のなかの
 月日も
 柿の秋
 福川 敏機

清和
 吊鐘のなかの
 月日も
 柿の秋
 武石 有希子

書学
 吊鐘のなかの
 月日も
 柿の秋
 今井 由希子

如学
 吊鐘のなかの
 月日も
 柿の秋
 清水 陽子

静若
 吊鐘のなかの
 月日も
 柿の秋
 吉次 静若

羊
 吊鐘のなかの
 月日も
 柿の秋
 内藤 奈々江

紅夜
 吊鐘のなかの
 月日も
 柿の秋
 青木 英子

紅庭
 吊鐘のなかの
 月日も
 柿の秋
 笹川 智美

南草
 吊鐘のなかの
 月日も
 柿の秋
 友田 将予

相武
 吊鐘のなかの
 月日も
 柿の秋
 是枝 敦子

一香
 吊鐘のなかの
 月日も
 柿の秋
 佐藤 美智子

書学
 吊鐘のなかの
 月日も
 柿の秋
 松本 千尋

書学
 吊鐘のなかの
 月日も
 柿の秋
 伊藤 照美

星霜
 吊鐘のなかの
 月日も
 柿の秋
 坂本 知美

新潟
 吊鐘のなかの
 月日も
 柿の秋
 坂井 亮華

蕉泉
 吊鐘のなかの
 月日も
 柿の秋
 古屋 和子

梧星
 吊鐘のなかの
 月日も
 柿の秋
 寺田 章子

瑞樹
 吊鐘のなかの
 月日も
 柿の秋
 末吉 愛

青空
 吊鐘のなかの
 月日も
 柿の秋
 脇田 早紀子

白千
 吊鐘のなかの
 月日も
 柿の秋
 金澤 直子

男解牽牛女能織不
須徵福渡河星

書字 木村 香織

男解牽牛女能織不
須徵福渡河星

大森 谷 拓弥

男解牽牛女能織不
須徵福渡河星

東上 齋藤 優

朝聞遊子唱離歌昨
夜微霜初渡河

幸丘 來栖 智子

朝聞遊子唱離歌昨
夜微霜初渡河

草扇 和田 恵子

燕支黃葉落

智世 忠

大井 遠山 杏美

燕支黃葉落

杏美 忠

男解牽牛女能織不
須徵福渡河星

書字 深谷 春琴

男解牽牛女能織不
須徵福渡河星

書字 海老原麗子

男解牽牛女能織不
須徵福渡河星

大磯 岩本 麗翠

朝聞遊子唱離歌昨
夜微霜初渡河

書字 藤井 颯子

朝聞遊子唱離歌昨
夜微霜初渡河

兵庫 谷垣 昌代

燕支黃葉落

華愷 忠

書字 鈴木 紫

燕支黃葉落

紫 忠

男解牽牛女能織不
須徵福渡河星

書字 中村 草太

男解牽牛女能織不
須徵福渡河星

もも 服部 鮎春

男解牽牛女能織不
須徵福渡河星

書字 石井 孝夫

朝聞遊子唱離歌昨
夜微霜初渡河

紅衫 児玉 久容

朝聞遊子唱離歌昨
夜微霜初渡河

書字 山本 恵市

燕支黃葉落

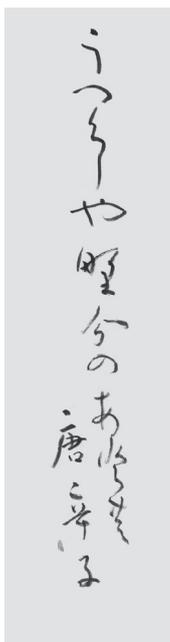
朋未 忠

書字 唐木真理子

燕支黃葉落

真理子 忠

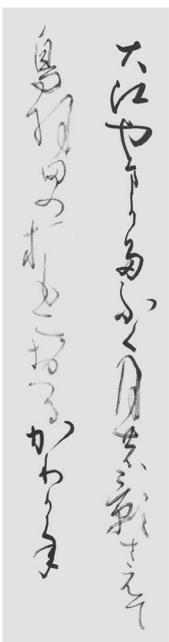
かな条幅



和 中村 珠香



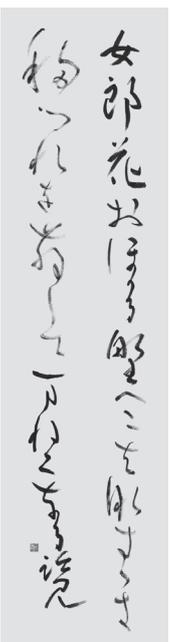
春水 伊達 宏子



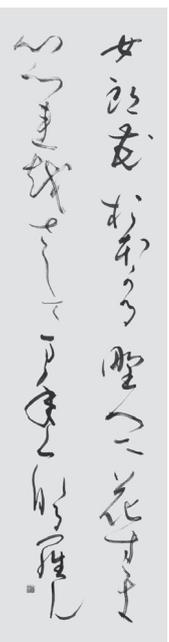
九州 大久保しのぶ



容弘 増山あゆみ



書学 藤村あゆみ



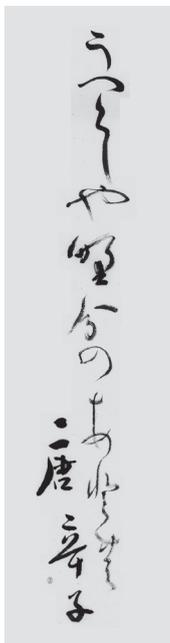
水荃 山中 容子



東林 藤巻 桂京



書学 鈴木 紫



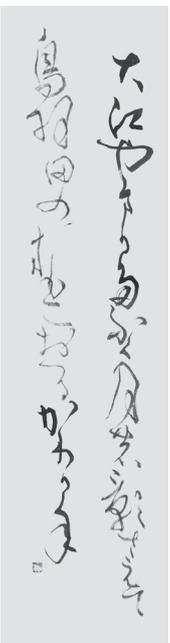
長秋 市川 佳泉



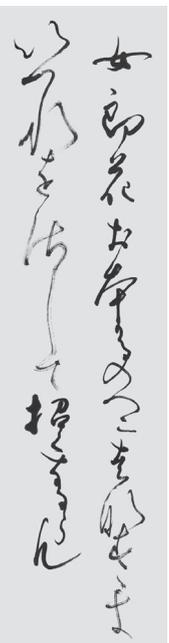
唐扇 井上 潔



游山 牧岡 牧子



茉友 菊島 克枝



芳野 山川智恵子



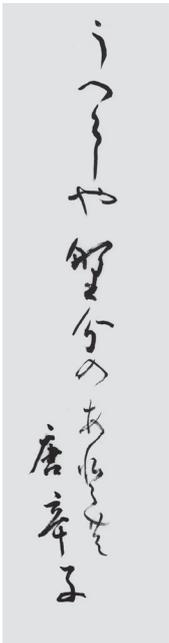
書学 古川 成子



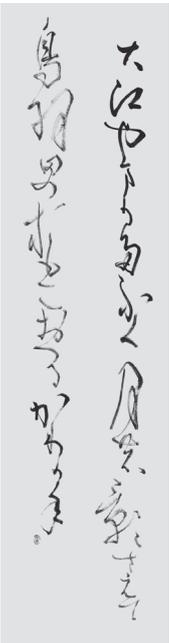
野中 稻葉 青風



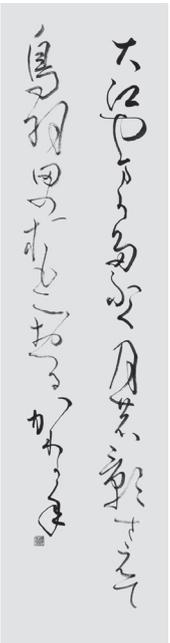
書学 板屋 幸子



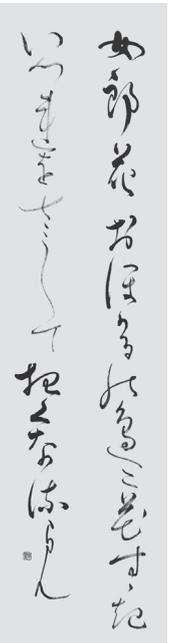
書学 清水 有紀



書学 細川 美帆



紅彩 竹田 友香



九書 山崎美須子



書学 奥島 彩舟

秋晴のひかりとなりて楽しくも
實りに入らむ栗も胡桃も

京都 奥村 匡子

蘭燈 山崎 燈水

秋晴のひかりとなりて楽しくも
實りに入らむ栗も胡桃も

野沢 高柳美佐恵

秋晴のひかりとなりて楽しくも
實りに入らむ栗も胡桃も

書字 山崎 幸恵

秋晴のひかりとなりて楽しくも
實りに入らむ栗も胡桃も

長倉 阿部 宏美

日あたりの菊のはたけに二つ三つ
名もしらぬ鳥のきて遊ぶかな

書字 榎木 親一

日あたりの菊のはたけに二つ三つ
名もしらぬ鳥のきて遊ぶかな

梧星 岡本 恵泉

日あたりの菊のはたけに二つ三つ
名もしらぬ鳥のきて遊ぶかな

秋晴のひかりとなりて楽しくも
實りに入らむ栗も胡桃も

百合 外山 香風

新書 内山 薫

秋晴のひかりとなりて楽しくも
實りに入らむ栗も胡桃も

九書 石橋 栄子

秋晴のひかりとなりて楽しくも
實りに入らむ栗も胡桃も

水荃 大島 絹子

秋晴のひかりとなりて楽しくも
實りに入らむ栗も胡桃も

兵庫 谷垣 昌代

日あたりの菊のはたけに二つ三つ
名もしらぬ鳥のきて遊ぶかな

洗心 村松 永好

日あたりの菊のはたけに二つ三つ
名もしらぬ鳥のきて遊ぶかな

杏花 鈴木 亨

日あたりの菊のはたけに二つ三つ
名もしらぬ鳥のきて遊ぶかな

秋晴のひかりとなりて楽しくも
實りに入らむ栗も胡桃も

M 市川 華泉

水荃 神崎 利佳

秋晴のひかりとなりて楽しくも
實りに入らむ栗も胡桃も

書字 樋口 義広

秋晴のひかりとなりて楽しくも
實りに入らむ栗も胡桃も

市川 田辺由香里

日あたりの菊のはたけに二つ三つ
名もしらぬ鳥のきて遊ぶかな

横浜 荒井 霞芳

日あたりの菊のはたけに二つ三つ
名もしらぬ鳥のきて遊ぶかな

香竹 天笠利衣子

日あたりの菊のはたけに二つ三つ
名もしらぬ鳥のきて遊ぶかな

森野 青木 努

日あたりの菊のはたけに二つ三つ
名もしらぬ鳥のきて遊ぶかな

敬呈名
やの
氏名
野口翠佳

ご丁寧なご挨拶に接し恐縮に存じます
お心のこもったお品ありがとうございました
いつもおこころにかけていただき、

敬呈名
大楠
氏名
山崎和子

ご丁寧なご挨拶に接し恐縮に存じます
お心のこもったお品ありがとうございました
いつもおこころにかけていただき、

敬呈名
芳水
氏名
柴原かおる

ご丁寧なご挨拶に接し恐縮に存じます
お心のこもったお品ありがとうございました
いつもおこころにかけていただき、

敬呈名
MM
氏名
芳賀 鳳 鳥

ご丁寧なご挨拶に接し恐縮に存じます
お心のこもったお品ありがとうございました
いつもおこころにかけていただき、

敬呈名
田石
氏名
石田穂花

ご丁寧なご挨拶に接し恐縮に存じます
お心のこもったお品ありがとうございました
いつもおこころにかけていただき、

敬呈名
伊賀
氏名
藤岡延子

ご丁寧なご挨拶に接し恐縮に存じます
お心のこもったお品ありがとうございました
いつもおこころにかけていただき、

敬呈名
戸塚
氏名
池田登志男

ご丁寧なご挨拶に接し恐縮に存じます
お心のこもったお品ありがとうございました
いつもおこころにかけていただき、

敬呈名
江川
氏名
安部静子

ご丁寧なご挨拶に接し恐縮に存じます
お心のこもったお品ありがとうございました
いつもおこころにかけていただき、

敬呈名
九書
氏名
長谷川 裕 美

ご丁寧なご挨拶に接し恐縮に存じます
お心のこもったお品ありがとうございました
いつもおこころにかけていただき、

敬呈名
日報
氏名
鳩岡 淳子

ご丁寧なご挨拶に接し恐縮に存じます
お心のこもったお品ありがとうございました
いつもおこころにかけていただき、

敬呈名
三重
氏名
青山 飛鳥

ご丁寧なご挨拶に接し恐縮に存じます
お心のこもったお品ありがとうございました
いつもおこころにかけていただき、

敬呈名
書学
氏名
藤井 顕子

ご丁寧なご挨拶に接し恐縮に存じます
お心のこもったお品ありがとうございました
いつもおこころにかけていただき、

如來之法具足成就不可思議微妙功德
教我所行安穩快善我後今日不復自隨
心行不生耶見憍慢瞋恚諸惡之心說是
語已禮佛而出佛告大眾於意云何妙在
嚴王豈異人乎今華德菩薩是其淨德夫
人今佛前光照莊嚴相菩薩是哀愍妙莊
嚴王及諸眷屬故於彼中生其二子者今
藥菩薩藥尚菩薩是是藥王藥上菩薩成
就如此諸大功德已於無量百千萬億諸

習志 安廣 清翠

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
異色色即是空空即是色受想行識亦復如
是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
不增不減是故空中无色无受想行識无眼
耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

書学 尾崎美和子

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
異色色即是空空即是色受想行識亦復如
是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
不增不減是故空中无色无受想行識无眼
耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

書学 宮下 香奈

如來之法具足成就不可思議微妙功德
教我所行安穩快善我後今日不復自隨
心行不生耶見憍慢瞋恚諸惡之心說是
語已禮佛而出佛告大眾於意云何妙在
嚴王豈異人乎今華德菩薩是其淨德夫
人今佛前光照莊嚴相菩薩是哀愍妙莊
嚴王及諸眷屬故於彼中生其二子者今
藥菩薩藥上菩薩是是藥王藥上菩薩成
就如此諸大功德已於無量百千萬億諸

岩手 渡辺 泰安

如來之法具足成就不可思議微妙功德
教我所行安穩快善我後今日不復自隨
心行不生耶見憍慢瞋恚諸惡之心說是
語已禮佛而出佛告大眾於意云何妙在
嚴王豈異人乎今華德菩薩是其淨德夫
人今佛前光照莊嚴相菩薩是哀愍妙莊
嚴王及諸眷屬故於彼中生其二子者今
藥菩薩藥尚菩薩是是藥王藥上菩薩成
就如此諸大功德已於無量百千萬億諸

書学 國吉 利典

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
異色色即是空空即是色受想行識亦復如
是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
不增不減是故空中无色无受想行識无眼
耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

市書 森 留美

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
異色色即是空空即是色受想行識亦復如
是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
不增不減是故空中无色无受想行識无眼
耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

書学 小島 黄雪

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
異色色即是空空即是色受想行識亦復如
是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
不增不減是故空中无色无受想行識无眼
耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

書学 山根美枝子

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
異色色即是空空即是色受想行識亦復如
是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
不增不減是故空中无色无受想行識无眼
耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

書学 海老名恵実子

審査評—秋山 凌雲
規定「意先筆後」



書字 大川 敦士
分間に留意して慎重に刀をすすめた温雅な作。内輪郭はもう少し大きくしても良かったか。



書字 高見 敏久
刀が良く切れていて線質も強いので、スカツとした爽やかさがある。横画に更なる研究を。



新書 宮城 康湖
刀法に筆意がある。細部まで目が行き届き完成度が高い。落款も味わい深く、書刻が一致した作。

随意「抱月」



水筆 青戸 佑吉
楕円の中に手偏を中央に大きく配し、「包」月を左右にバランス良く配した。「抱」の字の別形も見てみたい。

規定（像）

審査評—松岡 雪華
書美の真髄を求める漢字の一字書——



松 角田 茅水 偏旁の構成に一体化をみせ、筆脈の流れを巧みな運筆で表現。墨色も良く、安定感のある作品となった。



九書 長谷川裕美 草書体の造型を左寄せの構図で立体的に表現。墨量の加減と緩急による線の太細の変化が見事。運筆の呼吸が伝わる作品。



伊賀 山田 善永 筆圧の変化による線の疎密の変化と潤渇による分間、余白が作品に明るさを与えた。雅印ややさいか。



水筆 鶴淵 雅子 筆の開閉による骨力豊かな線画大きく紙面を捉える。暢びやかな最終画が作品に余韻を与えた。

随意（ふ）

審査評—松岡 雪華
诗情や筆遣ひの極意を知る平かな表現——



愛山 高田 佳桜 気を銜わず自然で深い運筆により、滋味溢れる作品となった。墨色も良く、押印により作品が安定した。



湘花 阿部のりこ 中心に寄せた軽妙洒脱な構成で、骨力ある線が魅力的。最終画の位置が全体を引き締めた。



厚木 田中 白砂 緩急自在な伸びやかな曲線が紙面に広がり、墨色の変化とともに自然な風趣を醸し出した品致に富む作品。



書字 木村 香織 字源の「不」を意識した一画目からの自然な流れが筆鋒の冴えで最終画まで繋がりが、骨力豊かな作品となった。